タイトル：2024 年度 教育セミナー（第 20 回）
日時：2024 年 9 月 19 日（木）～22 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 大会議室（303）

「サーレハ政権期におけるフーシー派の思想：前指導者フサインに見られる「反米」観に着目して」
井上 堅斗（立命館大学大学院国際関係研究科）

本セミナーでは、先生方による講義の受講、ならびに受講生による研究発表の機会が設けられ、私自身も研究発表を行った。以下では、私自身の研究発表に関して、またセミナー全体に関して、本セミナーに対する感想を述べたい。

まず、私自身の研究発表についてである。私自身、今回が初めての研究発表であったこともあり、正直なところ発表に対して不安ばかり感じていた。結果として、発表内容に関しては不十分なものだったというのが率直に思うところである。しかしながら、それ以上に発表を通じて得るものは大きかった。まずは、発表の「準備」についてである。今回の発表に向けて所属大学の先輩などから多くのコメントを頂いた。他人に理解してもらうためにはどのような話の流れにすれば良いか、どうすれば内容の中心となる部分を強調できるのかなど、聴衆を前にした発表であるからこそ気を付けるべきことを多く学んだ。続いて、発表へのコメントについてである。私の発表内容に対して先生方や受講生から多くの質問を頂いた。研究対象に関する質問も多く頂き、それに対して回答することを通じて、私自身が現時点でどれだけ研究対象について熟知しているのかを理解する機会となった。また、「用語を十分に理解し、自分の中で定義づけした上で用いること」や「文脈を意識すること」など、先生方から非常に有益なご指摘を多く頂いた。今回の発表がどのように今後に繋がっていくのかは不明だが、発表を通じて頂いたコメントは今後研究を進める上で重要なポイントになると確信している。

続いて、セミナー全体についてである。受講生は東京を中心に全国から集まり、専攻分野や関心も異なる学生ばかりであった。一方で、同じ「中東」や「イスラーム」に関する分野を研究しているからこそ、何か共有できるものも多いように感じた。普段、所属大学では私と同じように中東・イスラーム地域を研究する学生がそれほど多くなく、互いの研究について深く議論する場面は少ない。しかしながら、本セミナーでは互いの発表や研究関心について休憩時間やその他の時間に多く意見を交わすことができた。また、専攻分野や関心も異なることで少し違った視点からの意見も頂き、非常に有意義な時間であった。加えて、先生方による講義はどれも興味深かったが、特に興味深く感じたのは佐藤先生による講義である。文書研究という私とは全く異なる分野を研究される先生だが、先生の講義内容に私は思わず夢中になってしまった。その理由を考えたが、おそらく話し方や話の組み立て方によるものだろう。自分自身とは専攻分野や関心が異なる聴衆の前でいかに自

分自身の研究を魅力的に見せるか、この点については今後も考えていきたい。

本セミナーは非常に充実したものであった。当初は参加すべきかと悩んだが、結果として、他大学の学生と出会えたこと、研究に関して様々な視点から意見を頂けたことは、今後研究を進める上で非常に有難かった。今後も引き続き研究に邁進したい。

最後に、近藤信彰先生はじめ東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所に所属される先生方、今回のセミナーの準備をしてくださった千葉淑子様、受講生の皆様に深く感謝申し上げます。